



オー・マスター・キャリバン! *O Master Caliban!* (1976) フォリス・ゴットリーブ (藤井かよ訳) 早川書房(文庫) (1/31刊) ・¥480)

カナダの女流詩人が書いた長篇SF。題名は、シェイクスピア『テンベスト』から取られ、ストーリーも同書に基づいている。

銀河連邦の生物実験ステーションで、ロボットリエルグたちの反乱が起こる。生き残ったのは、四本腕の少年、知性のある手長猿と、山羊、そして、支配者だったダールグレンだけ。そこに、五人の少年、少女を乗せた宇宙船が不時着する……。

ダールグレンと、それに似せられたアンドロイド、ロボットのリーダー、エルグ・クイン、ダールグレンの息子でもある四本腕のスヴェン、猿のエスター、山羊のイーガル、不思議な能力を持つ子供シルヴァニアン等々。そのからみが、チェスのゲームの展開と共に書かれていて、一種のチェス小説ともなっている。本書の魅力は、第一にこの人物たちの個性にあるといえる。多彩な人物が、それぞれの役割の中で、十分に描き出されている。一方、SF的な設定となると、ちょっと新味に欠けるのも事実。アンドロイドの苦悩など、よくあるパターンだ。もっとも、読んでいて、ゴタつく部分もあるが、全体としては安定した作品といえるだろう。